

たてはく

令和元年度
前期特別企画展

立山ふしぎ大発見!?

会期：令和元年7月13日(土)～9月1日(日)

富山県のシンボルの一つである「立山」。そんな立山には、知っているようで知らない「立山のふしぎ」がたくさんあります。

たとえば、江戸時代の立山には「くたべ」という、顔は人、体は獣の生き物が現れたといいます。では、なぜこの「くたべ」が現れたのでしょうか？

また、136以上あるといわれた「立山地獄」。どんな地獄があったのでしょうか？

本企画展では、立山博物館に寄せられるたくさんの質問の中から、学芸員が「これは知って欲しい!」と選んだ5つの不思議を中心に紹介します。

立山登山の前に観覧すると、きっと立山の魅力も倍増!!もちろん、登山後に来館しても、魅力を再発見していただけると思います。(細木ひとみ)



ワークショップ①

「これで閻魔大王になれる!？」

立山版エコマイクを作ろう!」

会場：教算坊 教養室B

日時：8月4日(日) 午後1時30分～午後2時30分

対象：小学生(保護者同伴・要事前申込)

定員：20名(先着順)

ワークショップ②

「羊毛フェルトで雷鳥の手作りバッジを作ろう!」

会場：教算坊 教養室B

日時：8月17日(土)

講師：高崎千春氏(羊毛フェルト作家)

対象：興味のある方(要事前申込)

定員：10名(先着順)

申し込み方法は立山博物館まで。

会場 富山県 [立山博物館] 展示館1階 企画展示室

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下は無料

休館日 7/16、7/22、7/29、8/5、8/19、8/26

展示解説会

7/13(土)、8/11(日)、8/24(土) いずれも午後2時より開催

目次

令和元年度前期特別企画展「立山ふしぎ大発見!？」	1
たてはく新任紹介	2
GW特別公開展「立山曼荼羅+大日如来像+万葉集」	2
山岳集古未来館資料紹介	
堀田彌一資料から—ナンダ・コートの装備⑤ ランバンド	3
たてはく探検隊募集	4
ボランティア総会・教養講座	4
文化振興財団主催イベント	4
編集後記	4





たてはく 新任紹介

令和の時代に愛される博物館を



館長
城 岡 朋 洋

3年ぶりに立山博物館に戻ってきました。職責の重さに身の引き締まる思いをしています。

3月までは大門高校の校長を務めていました。在任中は、ふるさと富山の歴史や文化を語る機会を持ちました。これからの時代を生きる若者に、自分たちの生まれ育ったふるさとのことを見つめ、その魅力を知ってほしい、そしてふるさとに誇りを持ってほしいと願ったからです。特に、射水の平野からの眺望も素晴らしい立山については、立山博物館が所蔵する立山曼荼羅をはじめ貴重な文化財を紹介しながら、立山の自

然と人間が交感する中で育まれた豊かな歴史・文化についてよく話をしました。富山県に生まれ育った生徒たちですが、多くは初めて聞く話のようで、驚きを感じていました。

立山博物館は、立山の自然とその自然を舞台とした歴史と文化を解明し、さまざまな切り口でその豊かな内容を発信する博物館です。平成3年の開館以来、さまざまな施設や展示、イベントを通して、営々と努力してきました。その結果、四半世紀を超える当館の歴史の中で、立山博物館の魅力は多方面に知られるようになり、着実に「立博ファン」を増やしてきたと考えております。また、遠足や研修などで当館を利用していただく学校・団体が県内外に拡大し、観光だけではなく、学習施設としての機能も充実してきたようです。

5月1日に平成から令和に改元され、新しい時代が幕を開けました。私は、平成の時代に生まれた立山博物館を大切に受け継ぎ、その上で、令和の時代に生きる人たちに感動を与え、愛される博物館になるよう、なお一層尽力したいと考えています。

皆様には、今後とも立山博物館へのご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



学芸課長
高野 靖彦

このたびの人事異動で富山南高校から赴任しました。以前、4年間こちらで勤務させていただき、特別企画展の準備や調査研究に悪戦苦闘しながらも、芦峯寺の方々の温かい心に励まされていたのを覚えています。高校現場では立山博物館で得た知識を英語プレゼンコンテストに活かすチャンスがあり、生徒共に立山の自然と歴史の魅力を県内の高校生に発信することができました。学校での「ふるさと教育」や探究活動において「立山」は格好のテーマであると感じました。

これからは1日も早く立山博物館の戦力となれるよう、さらには立山の自然と人との関わりが生み出した素晴らしい文化を、国内はもちろん海外の方々へも広く発信していきたいと考えております。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

賑わいました！GW（10連休）のイベント！

「令和」へと改元された今年のゴールデンウィークは10連休。立山博物館では様々なイベントで来館者の皆様をお迎えしました。

- ①「ぜひ立山の至宝をご覧ください！」と特別展示を企画、昨年度に新発見となった「木造金剛界大日如来坐像」（南北朝期成立）の初公開に加え、かつて他見が許されなかった「青磁浮牡丹唐草文香炉」（県指定文化財・芦峯寺一山会蔵）、そして『立山曼荼羅』の中でも唯一の5幅本「相真坊A本」を展示しました。4月28日と5月5日の2回、学芸員が解説会をおこない、多数のご来館をいただきました。28日には、大日如来像の研究論文を執筆された杉崎貴英帝塚山大学准教授直々のスペシャルトークもありました。
- ②「「令和」改元を記念して「越中万葉」を知ってもらおう！」と、立山博物館所蔵『万葉集』尼崎切（伝源俊頼（1055～1129）筆）を特別公開しました。
- ③毎年恒例となった「立山博物館コンシェルジュ」。立山博物館ボランティアの方々〈わかりやすく+優しく〉立山博物館周辺の史跡などをご案内してくださいました。（開催日／4月29日、30日、5月5日、6日。出発時間：10時/11時/12時/13時。※1回につき45分程度）。各回、ほぼ出番があり、来館者の方々には充実したひと時を過ごしていただくことができました。
- ④5月3日・4日、立山黒部貫光（株）のご協力により、立山駅と立山博物館を往復する無料シャトルバスが運行され、立山黒部アルペンルートに訪れた方々のケーブルの待ち時間を有効活用して、有意義な時間を過ごしていただけていました。
- ⑤「地域の力で、立山博物館のある芦峯寺集落を盛り上げよう！」と、5月5日・6日には教算坊にて「宿坊カフェ」が開催され、来館者は展示の観覧前後に、新緑の日本庭園でほっと一息、清々しい時間を満喫していただきました。

（加藤基樹）





山岳集古未来館 資料紹介

堀田彌一資料から—ナンダ・コートの装備⑤ ランバンド

1936年の立教大學ヒマラヤ踏査隊（ナンダ・コート登攀隊）、堀田彌一隊長の装備。今回は堀田愛用のランバンドを取り上げる。

堀田に依れば、ランバンドとは、ルーバンドの変型で、頭に巻いて髪を纏めて押さえたり、額を流れ落ちる汗が眼に入るのを防いだりするために用いるものであるという。一種のヘッドバンドだが、用途は色々と拡張可能で、四肢のサポーターにも、止血帯にも応用できるという。

では、ルーバンドとは何か、という筆者の問いに、堀田さんは、「貴族のご婦人が額に付けるレースの帯か何かで出来た飾り物があるだろう、あれだよ」と教えてくれた。調べてみると「ルーバンド」は、面纱などを含む結構多様なものを指示する言葉のようだ。だが、それが如何なる「変型」の経過を辿って「ランバンド」に到ったかは判らない。識者の御教示を乞う。

堀田のランバンドは、両端が半円形の帯で、一端にはフック金具が補強当革を伴って附属し、もう一端には杉綾編平紐が縫い付けられる。

本体は、全体が緩やかな弧（ R =約85cm）を描くように元布から切り出された厚さ約2mm・全長約765mm・幅約80~88cmの帯で、縁膝りが施される。布は深い消炭色の羅紗で、経年使用により起毛が失われ、織組織の剥出しになった部分が広範囲に認められる。また破損箇所として、金具附属端から18cm附近に裂目が、同じく15・21・24cm附近に穴がある。

金具は、径1.5mmほどの硬質針金を折曲げて一体成形した「アンカー（布に止める基部）」と「フック」（フック長約25mm）よりなる。フックは先端で折り返して針金二本分の幅をなし、反りを付けたのち研磨によって形状が調整され、褐色の塗装が施される。塗装は経年使用により損耗剥離して基部以外にはほとんど残存しない。補強当革には補修痕があり、金具は一度は止め直されたようだが、基部は定位置から脱落したままの状態にある。

金具端の対端に縫い付けられる杉綾編平紐は、厚さ約1mm、全長は約650mmと本体より若干短い。

全体に、製品の使用状況を考え抜いたデザインで、高い技術に依って細部まで丁寧に作り込まれている。補強当革の横に縫い付けられた商標から三越製と知れるが、優秀な縫製技術者を抱えていた三越ならではの

…、と納得させられる製品の完成度である。

商標は、矩形の地布に刺繍で二重同心円を配し、その内円を野球ボールの縫目を模した円弧二本で上中下に区切り、中央に「MITSUKOSHI」、上下に「TOKYO」（上）と「JAPAN」（下）、これを取り巻いて、内外円が作る円環帯に「・ATHLETIC GOODS DEPARTMENT」を記す。「運動用品部」ほどの意味だろう。これら円・円弧・文字とも、矩形縫付と同じ黒色（あるいは深い藍色か？）の絹糸で刺繍される。

立教大學ヒマラヤ踏査隊の装備調達に大きな貢献を果たした海野治良は、昭和7年に東京好日山荘を開業するが、その前、海野は三越の運動用品部にいた。このランバンドが既製品か特注品かは判然としないが、その設計・製作にも海野の経験と人脈が活かされていた、と考えるのが自然であろう。

（吉井亮一）



堀田彌一のランバンド

全体（写真上）、本体フック端（同下右）、商標（同下左）。
 本体（突起部含まず）：約765cm（全長：帯上下中央部左右R頂端間）
 ×約80~88mm（幅：左右R端手前~本体左右中央部）、附属平編紐：約650mm（縫付部約30mmと尾部約35mmを含む全長）
 ×約25mm（幅）、縫付商標：25×26mm（高×横幅）、金具取付部鍍頭断面型補強革（商標縫付面側・商標縫付面背面側）：約40×23mm（長径×短径）
 ・約39×約24mm（長径×短径）、金具全体：約25×約8×約12mm（全長×全幅×奥行）
 ・約25×3mm（フック長×フック幅）。





さあ、君も探検へ出発だ！ 今年もたてはく探検隊員大募集!!

今年も、夏休み恒例の「たてはく探検隊」では隊員を募集します。曼荼羅絵解き、えんま様のお話、宝探しゲームなど、夏休みの一日を立山で楽しもう。

- ◎日時 令和元年7月27日(土)
9時30分～15時(予定) 雨天決行
- ◎会場 富山県[立山博物館] 展示館、教算坊、閻魔堂、閻魔堂、布橋、遙望館、まんだら遊苑 ほか
- ◎参加費 無料(事前のお申し込みが必要です)
※お申込方法などは当館HP、チラシなどでお知らせします。(7月上旬ごろ)
※対象は小学生で、原則保護者同伴でご参加ください。25名を最大定員で先着順としますが、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。参加児童は、当日は傷害保険に加入(当館負担)します。ご参加をお待ちしております。

ボランティア活動報告

ボランティア総会・ 第1回教養講座

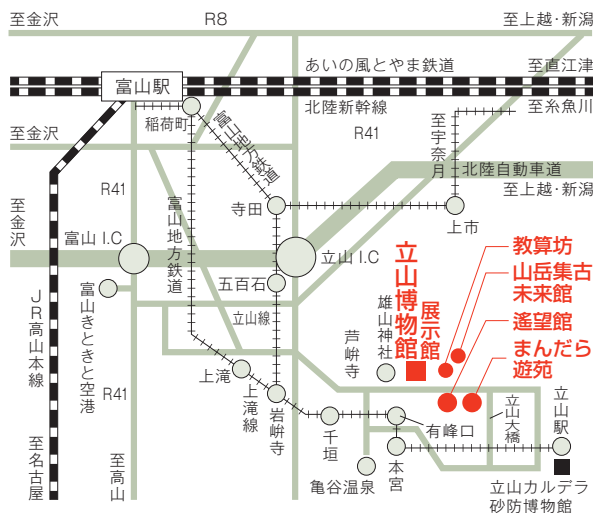
4月13日(土)午前10時から11時にかけて、平成31・令和元年度ボランティア総会が開催されました。2・3月中の役員会で提言・協議された内容について、今年度も「ボランティア活動の幅広い参加と活性化」をテーマに話し合われました。

役員改選の年で、活動推進委員が2名増員され、昨年度にもましてボランティア活動を盛り上げていくことが承認されました。

続いて第1回教養講座が行われ、当館の吉井主任専門員が石崎光瑠と立山の関わりからその作風への影響について、スライドを交えて解説しました。

今年度も立山博物館ボランティアは、自然や歴史を自ら学び、それを多くの方々に伝えていく活動を、楽しく展開していきたいと意気込んでいます。(森山義和)

案内図



令和元年 文化振興財団企画催し物一覧

◆道者衆の接待 一坊家御膳の再現一

期日：6月1日・8日(土)
 開催地：教算坊
 時間：11:30～13:00
 定員10名 事前申込必要、参加料3,500円
 芦崎寺の旧宿坊でもてなしされていた「坊家御膳」を往時を偲びながらご堪能ください。

◆青葉呈茶会

期日：6月2日(日)
 開催地：教算坊
 時間：11:00～15:00 お薄茶お菓子無料
 ※お茶、お菓子が無くなり次第終了
 庭園を眺めつつお薄茶をどうぞ

◆まんだらナイトウォーク 一光りと香りのページェント一

期日：9月7日(土)・8日(日)
 開催地：まんだら遊苑
 時間：18:30～20:30
 観覧料：一般400円、70歳以上・大学生以下
 苑内を無数に広がるキャンドルの炎やLED電飾による暗闇と光、またアロマやお香による香りなどで演出された、幻想的な世界は、インスタ映えするスポットとしても注目されています。是非、普段は感じる事の出来ない夜のまんだら遊苑をご堪能ください。



◆道者衆の接待 一坊家御膳の再現一

期日：10月5日・12日(土)
 開催地：教算坊
 時間：11:30～13:00
 定員10名 事前申込必要、参加料3,500円

◆もみじ呈茶会

期日：11月3日(日)
 開催地：教算坊
 時間：11:00～15:00 お薄茶お菓子無料
 ※お茶、お菓子が無くなり次第終了

編集後記

立山博物館のある富山県では明るい話題がありました。先日の大相撲夏場所で富山県出身力士「朝乃山」が初優勝しました。富山県出身力士の優勝は1916年(大正5)の横綱「太刀山」以来のことです。めでたい「令和」初の優勝、そして新体制で臨む「令和」初の『たてはく』です。(加)

- 最寄り駅 富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩(約2km)
※日曜を除き町営バス運行
「雄山神社前」下車すぐ

立山博物館のホームページはこちらから。



- 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約10分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦崎寺93-1
 TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144
<http://www.pref.toyama.jp/branches/3043/home.html>

Facebook あります! 立山博物館

